

『 ぱんだより 』

※パンダからのお便りという意味で「ぱんだより」と名付けました。
 スパークスのアジア地域における情報発信レポート

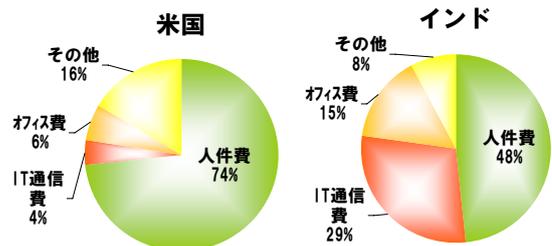
第24号(2009年2月10日)「インドでは景気づけにワインで乾杯！」



低コストで勝負

現在、インドで最も注目されている産業の一つが、ソフトウェア開発を中心としたIT産業です。インドのソフトウェア産業の急成長は、国内需要の増加と海外市場の開拓の双方によって支えられています。国内需要の増加は、インドが抜本的な経済自由化を通じ、国内の開発を急速に進めてきたためです。一方、海外市場の開拓については、何と言ってもインドでの開発コストが低いことによります。ソフトウェア開発は、コストに占める人件費の割合が高い産業であり、質が同等であれば人件費の安さが圧倒的な競争力になるのです。

IT産業におけるコスト内訳の比較



(出所: MASSCOM 2008年現在)

インドでのソフトウェア開発の最大の競争力は、人件費の安さ！



低価格のPC

近年、急成長してきたインドも、米国経済の減速の影響を受けています。しかしながら、インド政府のIT諮問委員会では、『アメリカがITのコストを下げようとするれば、コストの安いインドを使わなければならないのでインドには不利に働かない。』と分析しているようです。

また、世界のITサービス市場は年間8,000億ドル強であり、そのうちインドは約400億ドルなので、まだ成長の余地は十分あります。そして、インドのある大手IT企業の場合だと、現在、売上高の60%が米国、30%が欧州、残りの10%がアジアなどその他地域となっていますが、新興国の経済成長を考慮すると、今後、アジアなどその他地域の売上は20%程度まで上昇すると予想されています。

一方で、欧州は40%に伸び、米国は40%に落ちこむと見られており、過去5年で、欧州が15%から30%に倍増したことを考えると、米国経済失速の影響は限定的と思われる。

また、低価格自動車で有名なあるインド企業では、約2,000円のノートパソコンが開発されているそうです。この低価格PCを、インド国内の1万8,000を超える専門学校や400の大学に導入し、通信教育などを活用して、教育水準の引き上げを行うのが狙いのようです。低コストで教育水準の引き上げとは、日本も見習いたいところです。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『ぱんだより』

スパークスのアジア地域における情報発信レポート



『眠れる巨象』ワインブーム

インド株式市場（SENSEX 指数）は、2008年の年初から直近までで50%以上のマイナスとなっています。また粉飾決算の発覚など、現状も厳しい環境が続いており、短期的には軟調に推移する可能性があります。

しかし、こうした環境下、景気づけという言葉もあるように、インドではお酒の消費が拡大しているようです。2008年のインド酒類産業は、過去最高の売上を記録しました。2008年は、インフレによってアルコール飲料の価格が上昇した影響もあり大きな伸びとなりました。加えて、2009年においても、18～20%の増加となる見通しです。ちなみに、インドでは過去数年10～12%ペースでアルコール消費量が増加してきました。まだ、インドでのアルコール消費の絶対量は少ないものの、酒メーカーは“空前の成長”にあるインド市場から目が離せなくなるでしょう。

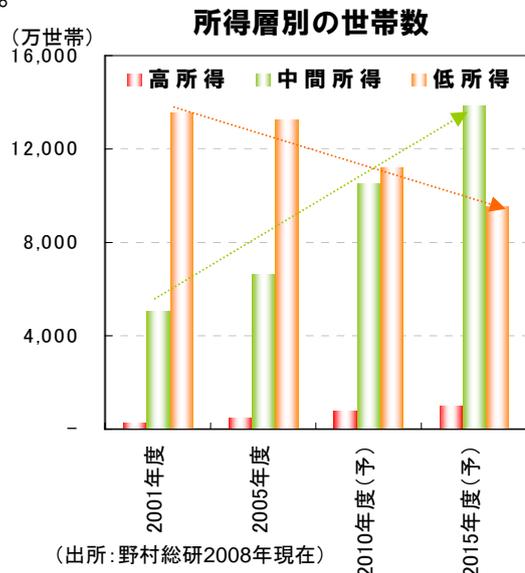
アルコール消費の増加の背景には、まず、一般庶民の生活に余裕が出てきたことが挙げられます。インドの所得層別の世帯数を見ると低所得世帯の減少とともに、中間所得の世帯数が上昇し、今後も拡大していくと予想されています。これにより、家電や多種多様な海外ブランド品が普及していますが、同様に嗜好品であるアルコールの消費も拡大しているようです。

加えて、アルコールの中でもワインの消費増加率が極めて高く、ブームになりつつあるようです。

あるイタリアの有名ワインメーカーは、インド市場への参入の可能性を探るため、視察チームを送りましたが、「インド市場は今後数年で、ワイン業界にとって最高の市場になるだろう。」とコメントしています。

このように急速に拡大しているインドのワイン市場は、香港や日本などの成熟市場はもとより、中国や韓国などの急成長市場にも追いつく勢いとのことです。

（編集後記）会社の同僚が、先日インドで結婚式を挙げました。ワインブームの流れもあり、たくさんのワインを飲んだそうです。インドワインというものもあるようで、超一流のワインのプロフェッショナルたちにも高く評価されているそうです。日本においては「神の雫」というドラマが始まりワイン教室に通う人も増えているようですが、インドに追い越されてしまう日もそう遠くないかもしれません。



（見に行っちゃイナ）



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。